― 日常のたわいない会話から内面を引き出して、支援につなげる ―

スターツケアサービス株式会社 きらきら保育園

※イメージ写真

事業概要　：　高齢者支援・介護・保育事業
従業員数　：　1,768人（令和元年5月現在）
サポーター　：　田中さん・仮名（職場上司）
被支援者　：　20代（知的障害）
勤続年数　：　2年4ヶ月（令和元年7月現在）
業務内容　：　保育補助、清掃、庶務

支援内容		
	取組み ➡	面談、日報、目標設定シートの活用
	効果 ➡	内面・体調面の把握、業務量確認 得意・不得意業務の自己理解度確認

特別支援学校から職場実習生を受入れ 地域貢献と、事業所での障害理解を促進

主に建設・不動産関連事業を行うスターツグループの中で、高齢者支援・介護・保育事業を行うスターツケアサービス㈱は、現在、92箇所の高齢者施設と10箇所の保育園を運営しています。地域密着で事業を行う同社は、平成28年より地元の特別支援学校から職場実習生を受け入れ、地域貢献をしながら職員の障害理解を進めてきました。

そんな中、平成29年4月、田中さんが勤務する保育園に知的障害のあるAさんが入社しました。Aさんは、真面目でとても頑張り屋な性格ですが、その分、知らず知らずのうちに無理をし過ぎて自分の許容量以上の仕事を抱え込んでしまうという課題がありました。実習生の受入れと違い、新入職員のAさんの支援には周囲の職員も手探りの状態でしたが、*発達支援コーディネーター研修を受講していた田中さんがAさんの支援を担当することになり、ようやく今後の方向性が定まることになりました。

*発達に遅れや障害のある児童の支援を行うための保育士対象の研修。

「井戸端会」での、たわいない会話から 些細な変化をキャッチし支援につなげていく

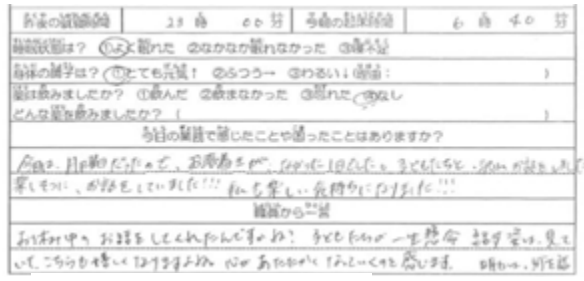
支援担当となった田中さんがまず考えたのが「個人面談」です。細やかなフォローでAさんの内面を拾い上げて支援につなげていこうと考えました。しかし、いざ面談に臨んでみると、個人面談のような改まったスタイルではかえってAさんが緊張してしまい、本音を聞き出すことはできま

※イメージ写真

せんでした。そこで田中さんは、日常のお喋り会のような雰囲気を作り、たわいない世間話の延長線上から業務の話につなげていった方が本音が出やすいと考え、あえてオープンスペースで話を聞いていくことにしました。「井戸端会」と名づけたこの面談を2週間に1度のペースで行い、Aさんが頑張り過ぎて無理をしていないか、仕事を抱え込み過ぎていないかをさりげなく確認していきました。

また、井戸端会と並行して「日報」を用いてAさんの内面を確認していきました。この日報には、睡眠状況や気分の波など体調を確認できる項目も作りました。Aさんは上手くスマホを活用し、日常の様子などをいろいろ記載してくれたため、労務管理ツールとしてだけではなく、Aさんの些細な変化に気づくことにもつながりました。

＜実際の日報＞



養成講座に参加し、多くの企業が熱意を持って障害者支援をしていることを実感

Ａさんが入社して丸1年が過ぎ、任せられる仕事も順調に増えた頃、田中さんは上司から、全社の障害者雇用推進の取り組みの一環として、養成講座に参加するよう指示を受けました。田中さんは、Ａさんの成長にプラスになることがあったら何でも習得したいと思っていたため、早速受講を申込みました。

養成講座では、参加者同士のディスカッションの中で、どの企業も熱意を持って障害者支援に取り組んでいることを実感し、自分も一層頑張っていこうと気が引き締まる思いになりました。

目標確認シートを活用し、できた点・できなかった点を両者で確認

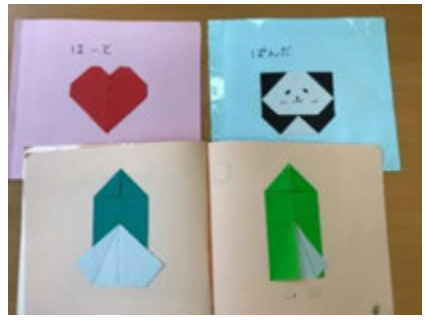
サポーター登録後の田中さんは、訪問した支援員から、「就労意欲の高いＡさんは、目標を持って行動することが成長につながるタイプでは」と助言され、「目標確認シート」の活用を勧められました。早速、Ａさんと一緒に３つの目標を設定し、その目標に向けて努力していくことを話し合いました。

＜実際の目標確認シート＞

また、「目標確認シート」や「日報」を他職員にも共有し、Ａさんがどのような目標に向かって努力しているかを知ってもらうことにしました。Ａさんの目標を知った職員からは、「もっと成長できるように応援していきたい」という声が出てきて、園全体、職員全員でＡさんを支援していこうという雰囲気が一層高まっていきました。

Ａさんと目標設定をしてから3か月が経ち、田中さんは井戸端会の際に、「目標」に対しての自己評価をＡさんに確認すると、３つのうち２つは高い評価だったものの「絵が上手に描けるようになりたい」という目標に、最低評価をつけていることが分かりました。絵が上手に描けないことをＡさんが気にしていたことを、本シートを介して初めて知った田中さんは、「苦手分野に挑戦することも大切だけど、今は得意なことや興味を持っている分野を伸ばしていくことが、もっと大切だよ」と伝え、自信を失わないように励ましました。

その言葉が通じたのか現在Ａさんは、見たまま真似をしていけば上手に折り紙が折れる「折り紙冊子」を、園児のためにたくさん作っています。田中さんは、保育士として園児を笑顔にしようと頑張っているＡさんを頼もしく感じ、これからどのように成長していくのか楽しみにしながら見守っています。



田中さん 「Ａさんの意欲的な姿勢が、職場を明るくし活気づけてくれています」

当社は、各事業所の障害者支援担当の職員全員が養成講座に参加し、指導・支援方法の知識を習得しています。そしてサポーター登録後は、毎月訪問してくれる支援員の助言を受けながら、各事業所で障害のある職員の支援を行っています。また、本部の呼びかけで定期的に「サポーターミーティング」を実施して、各事業所で取り組んでいる支援事例を共有し合い現場で役立てています。そこでの情報交換は、お互いがサポーター事業に参加しているからこそ分かり合える専門的な話もできるので、とても参考になっています。

またＡさんは、周囲のベテラン保育士の働きぶりを見て、自分ももっと園児と仲良くなりたい、頑張っていきたいと意欲的です。その前向きでひたむきな姿勢が周囲の職員にも伝わり、職場全体を明るくし活気づけてくれています。